

第10回全国銃剣道指導者研修会



第10回全国銃剣道指導者研修会（主催＝日本武道館、全日本銃剣道連盟、後援＝スポーツ庁）が11月10日～12日の3日間、日本武道館研修センター（千葉県勝浦市）にて参加者50名が集まり実施された。

本研修会は、全国で銃剣道を指導する中学、高等学校の教員及び社会体育指導者を対象に、我が国の伝統と文化に立脚した理論と実技の研修会を実施し、「銃剣道」の理解を深め、専門的な知識・技術・指導法の充実を図り、もって全国的な銃剣道指導者の養成と資質向上に寄与することを目的として行われた。

◆11月10日（金）

はじめに開講式では、いちのやすみ市野保己全日本銃剣道連盟副会長兼専務理事が挨拶に立ち、「参加者の皆様には今回の研修会を通じて銃剣道の専門的な知識、技能、指導法について更に知見を深めて指導力の向上のお役に立てればと思います」と挨拶した。次にかたおかまさのり片岡正徳日本武道館事務次長が「皆様には体調に気をつけながら、この研修会を講師・助講師の先生方のご指導のもと有意義な3日間にしていただきたいと思います」と述べた。

開講式後、中学校武道必修化指導書 DVD

武道編の視聴を行い、その後、せおみまこと瀬尾誠特別講師が「将来のリーダーを楽しみながら育てる」をテーマに講義を行った。

瀬尾特別講師は、教育指導にあたる立場の者が心がけることとして、何をいかに繰り返し訓練するかという「探求」、できる人の真似をするのではなく、参考にして自らが良いと思うことを「実践」すること、現場に身を置き、よく観察して指導する楽しさを「発見」することの3つを挙げた。また、指導者は教えられる側と対等な目線に立ち、共に成長し、信頼関係を構築していくことが重要であると参加者に呼びかけた。



講義内では、少人数のチームに分かれ、瀬尾特別講師が用意したアイデアフォーメーションボードを活用して、多様な意見を本音で出し合い、チームとしての課題解決

のための方向性などを決めるためのグループワークを実践した。

その後、瀬尾憲次講師指導のもと、銃剣道未経験者を中心に銃剣道基本動作の実技を行った。木銃の部位の名称や取り扱い方、用具の説明、立ち方や座礼などの礼法、足さばきや用具装着者に対する突き体験などの基本動作の説明や実技を実践した。瀬尾講師は「突いた後、構えの姿勢に戻るまで気を抜かないこと」、「視線まで気を配ること」と参加者に注意を呼び掛け、手抜きや楽をしないで、丁寧な動作を心がけることが重要であると述べた。

◆11月11日(土)

2日目は、中学校必修化対応・高校部活動班と社会体育指導者班の2班に分かれて研修を行った。中学校必修化対応・高校部活動班では、瀬尾講師が準備体操、基本動作の復習を行った後、中心をとらえて、真っ直ぐ突くための練習方法として新聞紙突きと風船突きのゲームを実践した。

その後、滝沢元氣講師より、新聞紙突きを発展させた、足さばき・突き動作を取り入れたゲームが紹介された。

次に、有段の参加者が初心者参加者へ個別に木銃の持ち方・礼法・構え・足さばき・突き方の指導を行った。その後、指導を受けた参加者は班全体に向けて自分が指導を受けた内容を実際の授業を想定して、3分で発表・実践を行った。

社会体育指導者班では、地域社会指導者として本研修会で学んだことを地元で、伝達してもらうために佐藤亨講師が集団的指導の講義を行った。その後、形の指導実習を行った。

休憩を挟み、中学校必修化対応・高校部活動班では、楽しみながら正しい突き方や姿勢の確認を行える、銃剣道ボウリングと、ガットが貼られていないバドミントンラケットを使った練習方法の紹介を行った。

続けて、石川慎也講師と田村聖一講師が

見本となり、滝沢講師が解説を行いながら有段者と初心者のペアに分かれて形の指導、判定試合のトーナメント戦を行った。

社会体育指導者班は用具を着用して、連続突きや、払い突きなどの基本技の指導実習を行った。



2日目の締めくくりとして中学校必修化対応・高校部活動班では、「銃剣道体験授業における生徒の惹きつけ方と体験授業の効果とは」、「今後の部活動と地域銃剣道活動との係わりについて」をテーマに、社会体育指導者班は「今後の部活動と地域銃剣道活動との係わりについて」をテーマに情報交換会を行った。参加者からは、「今回の研修会で初めて銃剣道を行ったが、ゲームの要素などが取り入れられていたので非常に楽しんで行うことができた。『初心者でもできる・楽しめる』という感覚は生徒の意欲につながると改めて実感できた」「楽しさは生徒の主体性につながる」との意見・感想が挙げられた。

◆11月12日(日)

3日目は、市野講師が「全日本銃剣道連盟における必修化への対応と取組」をテーマに講義を行った。中学校銃剣道授業に対する取り組みの経緯や昨年度の中学校授業の実施状況などを説明し、「中学校銃剣道授業の実施に当たり、最も重要なことは、『安全で楽しく充実した銃剣道授業を実施すること』である」と述べた。

閉講式では、代表者に修了証の授与、瀬尾講師より講評を、最後に市野全日本銃剣道連盟副会長兼専務理事が主催者挨拶を述べ、研修会のすべてを終了した。